



中之島だより

令和8(2026)年 8月9月号
和歌山市立中之島小学校

「やってみよう」があふれる学校へ

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声とともに、学校には一気に活気が戻ってまいりました。校門で「おはようございます!」と元気に挨拶を交わす子どもたちの笑顔を見ることができ、教職員一同、嬉しい気持ちでいっぱいです。

公園などではツクツクボウシの鳴く声が聞こえ始める一方、厳しい暑さがいまだ続いております。学校では子どもたちの健康と安全を最優先に教育活動を進めてまいりますが、ご家庭におかれましても、スムーズに学校生活のリズムを取り戻せるよう、「睡眠」や「食事」を大切にされた規則正しい生活への切り替えに、引き続きご協力をお願いいたします。

《校舎外壁塗装工事について》

夏休み中より、学校施設の美化と維持管理を目的とした校舎の外壁塗装工事を行っております。工期は来年1月までを予定しており(進行状況により前後する場合があります)、期間中は工事に伴うさまざまな作業が行われます。

現在、校舎の周囲には足場が組まれた状態となっております。児童の安全確保のため、子どもたちが在校する時間帯には工事車両の出入りを極力控えるよう、施工業者と緊密に連携しております。

ご家庭におかれましても、登下校時などに「足場付近には近づかない」「工事車両に注意する」など、お子様へお声がけいただけますと幸いです。工事完了後には、より快適で美しい学習環境が整う予定です。しばらくの間ご不便やご心配をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

《学校は「安心の基地」であり「間違う場」です》

先日、小児科医の古宮圭先生による「困り感のある子どもについて」という講演を聴く機会がありました。その中で、学校は子どもにとっての「安全基地(Safe Base)」であるべきだというお話がありました。子どもたちが外の世界へ冒険に出かけ、不安や困り感が生じたときにはいつでも安心して戻ってこられる、そんな温かい場所でありたいと考えております。

また、学校は失敗を恐れずに「トライ&エラー(試行錯誤)」ができる場所でもあります。絵本『「教室はまちがうところだ」 蒔田晋治・作 長谷川知子・絵 子どもの未来社』には、次のような言葉があります。

「教室はまちがうところだ(中略) まちがうことをおそれちゃいけない まちがったものをわらっちゃいけない(中略) そうしてみんなで伸びていくのだ」

2学期も、子どもたちが失敗を恐れずに自分の考えを表現し、互いの違いを認め合いながら成長していけるよう、心理的安全性の高い教室づくりに努めてまいります。

今学期も、保護者の皆様、地域の皆様の温かいご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。